



年度末

普段便利に暮らしていると、その便利さを支えてくれるモノが異常をきたすと大変なことになる。私の場合、仕事は全てパソコン上で行っているのだが、家のパソコンが土曜日の夜からダウン…。パソコンというものは、調子イイ時は本当に便利なのだが、いざ壊れると、復旧に手間取るし時間はかかるしでやっかいな代物となる。再インストール、プログラムの更新、設定の直しなど、徐々に進めているのだが、いまだに全部の作業をやり終えていない。トホホである。

*

ところで、球技大会はバレーボールで女子が2位、男子が3位と健闘したが、あとは、いつも通りの？まあまあの結果であった。めでたし、めでたしといったところか。1日目が終わった段階で、●●さんが「女子バレーが優勝したらハーゲンダッツ！」などと無謀な要求を突きつけてきたので、「ガリガリ君なら…」と誤魔化しておいたが、それも杞憂に終わったというところである。

その球技大会の間に、なかなか応援にもいけない我々担任団が一体何をやっていたのかというと、君たちの年度末の成績処理と、来年度のクラス編成である。

よくクラス編成というと、「カップルは分けるのではないか？」とか、「先生の好みで決めているのではないか」とか、根も葉もない噂が飛び交うが、そういうことはない…というか、そういう操作をすること自体が（英語と数学で展開授業が行われる日比谷の場合）ムリなのである。

クラス分けは、1年間の成績をもとにして、どのクラスも成績が均等になるようにするというのが基本である。「特進クラス」みたいなものを構想することも可能であるが、日比谷の場合は、色々な成績の生徒が文・理の別なく混じり合っていた方が、お互いに高め合いながら力を伸ばしていくことが分かっているので、あえて成績順のクラス編成にはしないのである。（ちなみに、私は以前「文系コース」「理系コース」というのがあった学校にいたことがある。その学校では、「文系コース」は文系を伸ばし、「理系コース」は理系を伸ばすという触れ込みであったが、実際はどうだったかということ、「文系コース」は「理系科目ができなくてもよいコース」、「理系コース」は「文系科目をさぼるコース」になってしまったのである。分かるような気がするでしょ？）

さて、それだけなら何とかできるのだが、先ず芸術の選択がある（よって、書道クラスはあまりメンバーが替わらない）。さらに、前に書いたように、英語と数学には標準と発展があり、男子には体育の選択まである。それらを踏まえて、2クラスペアで授業展開した時に、どの2クラスのペアもそれぞれの講座（数学と英語の標準と発展、体育の柔剣道、芸術…）の男女の人数が同じになるように調節するとすると、もうほとんど成績順のみでクラスが決まってしまうのである。

ところで担任はどうなるか？ こういう人事に関することは一切秘密♡である。4月をお楽しみに（笑）。